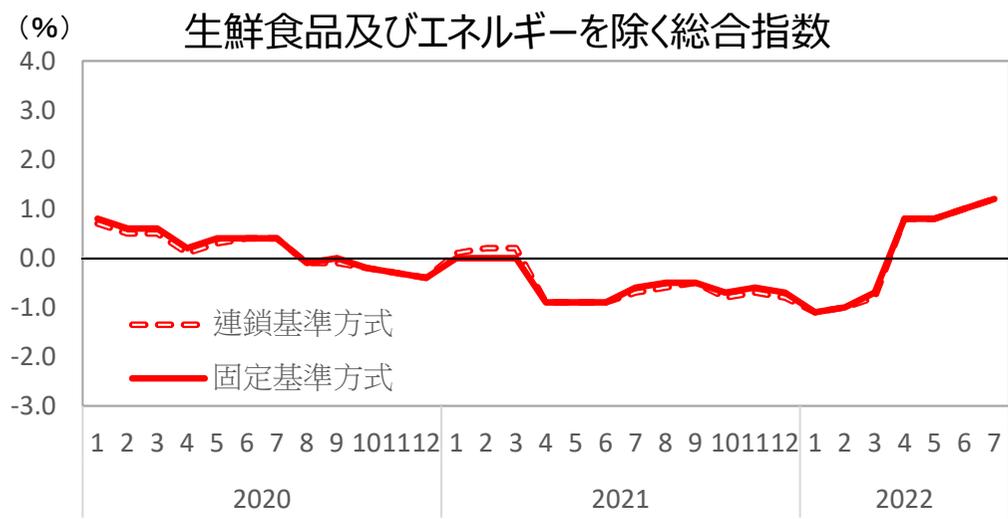
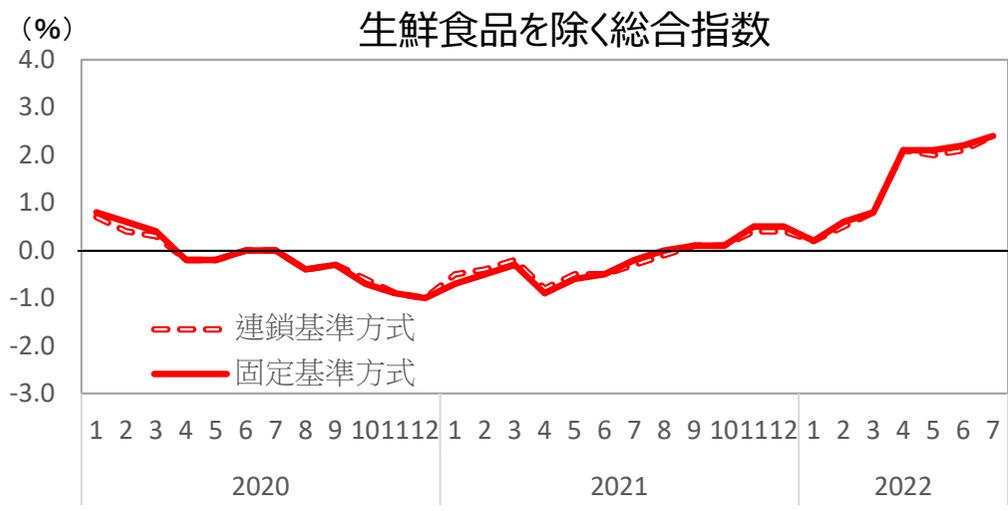
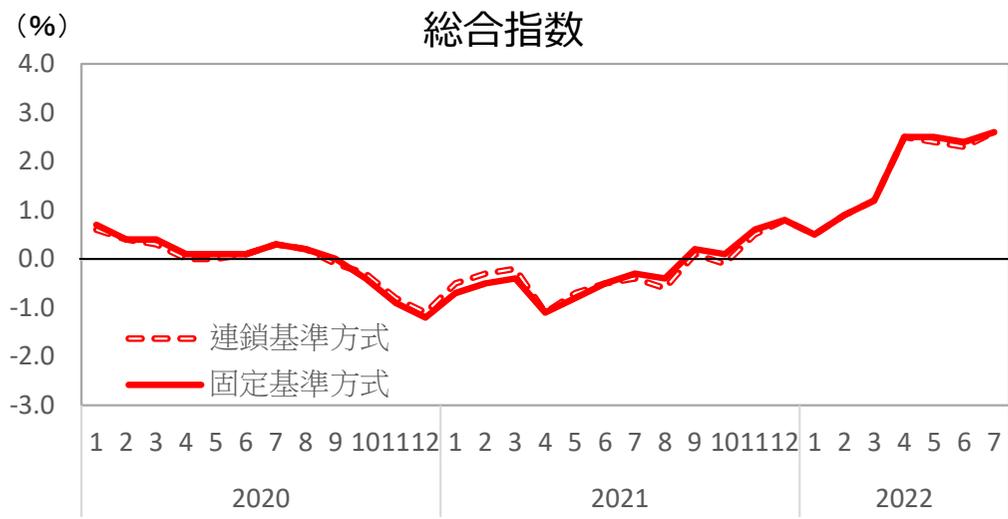


# 2020年基準ウエイトの確認（固定基準指数と連鎖基準指数の比較）

- 固定基準指数と連鎖基準指数について前年同月比の推移を比較すると、両指数に大きな差異は生じていない（2021年以降の前年同月比の差は最大±0.2ポイント）。
- 今後の新型コロナウイルス感染症の影響及び家計の支出構造がどのように変化していくのか現時点では不透明であることも踏まえ2020年基準の固定基準指数については現行のウエイトの使用を継続する。

各指数の前年同月比の推移



注) 前年同月比を算出した各年における各指数のウエイト参照年次について

2020年固定：2015年  
連鎖：2019年

※2020年は旧基準（2015年基準）で算出した値

2021年固定：2019年・2020年平均  
連鎖：2020年

2022年固定：2019年・2020年平均  
連鎖：2021年

# 2020年基準ウエイトの確認(固定基準指数と連鎖基準指数の比較)

## 前年同月比の差(固定ー連鎖)



- ◆「消費者物価指数2020年基準改定計画(抜粋)」(令和2年12月4日公表、令和3年4月2日一部改定)
  - 消費支出における新型コロナウイルス感染症の影響や、固定基準指数(公式)と連鎖基準指数(参考)との差を注視し、両指数に大きな差が生じるようであればその要因に関する分析結果を公表するなど、統計利用者に対する丁寧な情報提供
  - 上記の状況を踏まえて2025年基準改定を待たずに再見直し(中間年見直し)を検討
  
- ◆固定基準指数と連鎖基準指数について
  - 指数の計算方式としては、基準とする年の消費支出割合をウェイトに用いて指数を計算していく固定基準方式、前年の消費支出割合をウェイトに用いて計算した当年の指数を毎年掛け合わせていく連鎖基準方式などがある。
  - 消費者物価指数では、固定基準方式の指数を公式指数として公表するとともに、連鎖基準方式の指数についても参考指数として公表している。